

対応方針(案)を検討する際の評価軸について 【環 境】

河川区分について（第1回矢部川学識者懇談会資料より）



【環境の現状と課題】

◆河川環境（動植物の生息、生育、繁殖環境）

- ・下流部：有明海特有の貴重な汽水環境の保全
- ・中流部1：特定外来生物のブラジルチドメグサが繁茂している。【課題】
ワンドをとりまく豊かな自然環境の保全
- ・中流部2：アユの産卵場、チスジノリの生息場となっている瀬・淵及び河畔林、ゲンジボタルの生息場の保全

◆水質

- ・全川的に概ね環境基準値を満足している。ただし支川飯江川において湛水の影響で夏場に環境基準値を超える場合がある。【課題】

◆河川利用

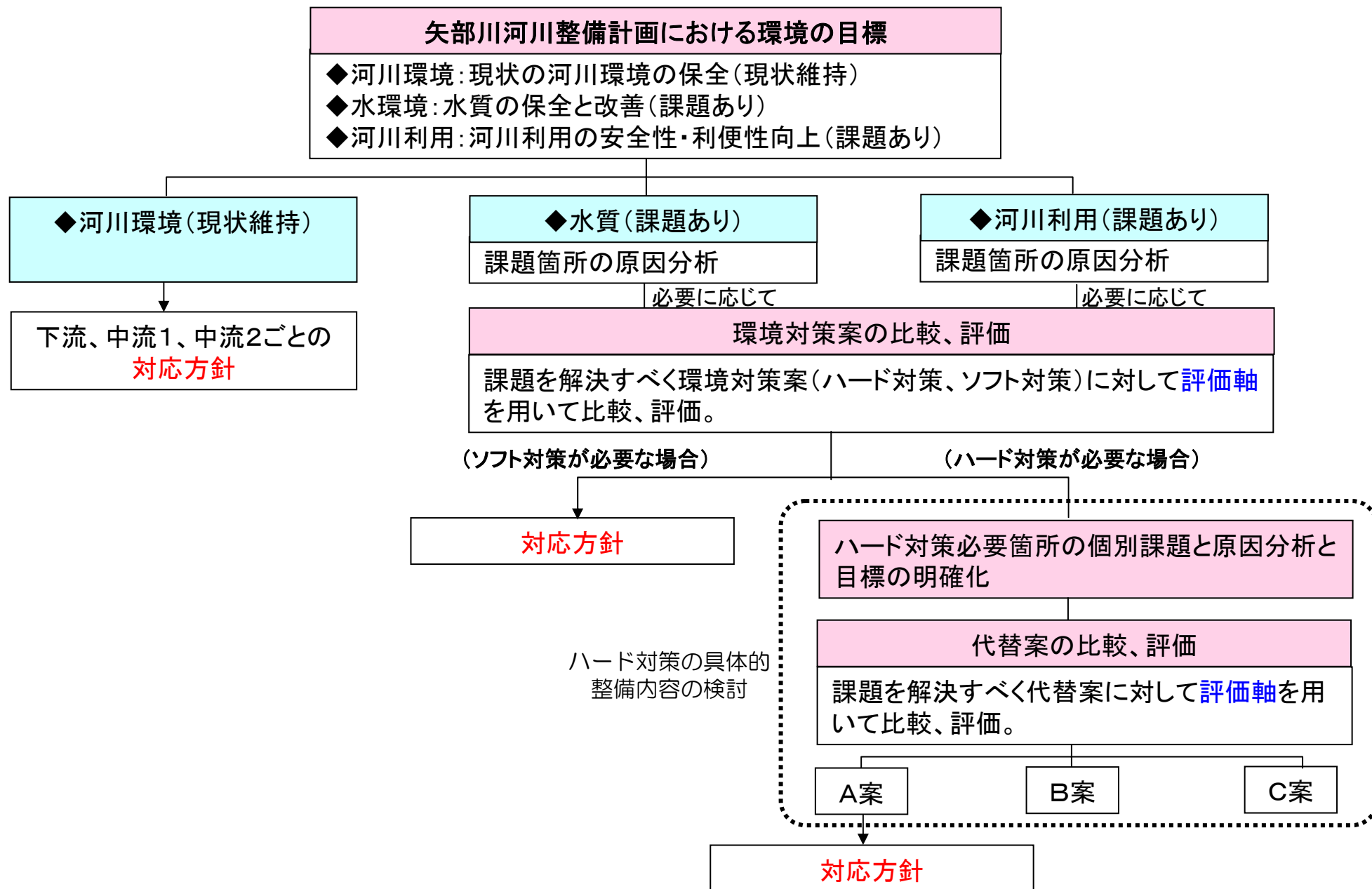
- ・中流部1：筑後広域公園の整備（県）や九州新幹線の開業などに伴い、当該箇所は今後さらなる河川利用の増加が見込まれるが、河川内を安全に行き来出来るアクセス道路が無い。また、一旦、川の中に落ちると陸への避難が困難。【課題】
・管理用道路がないため、ゴミの撤去や浚渫土砂の撤去が困難。【課題】
- ・中流部2：筑後広域公園の整備（県）や九州新幹線の開業などに伴い、当該箇所は今後さらなる河川利用の増加が見込まれるが、河川内を安全に行き来出来るアクセス道路が無い。また、一旦、川の中に落ちると陸への避難が困難。【課題】

【環境の政策目標】

- ◆河川環境：河川環境の保全
- ◆水環境：水質の保全及び改善
- ◆河川利用：河川利用の安全性・利便性の向上

環境の現状と課題、目標について

【環境の目標に対する対応方針の検討フロー】



②環境の評価軸について

- ・河川整備計画において、矢部川の環境に関する現状と課題を踏まえ、目標を達成するソフト及びハードを含めた対策案について比較検討する。
- ・対策案について、以下の8つの評価軸のなかから、適用できるものを抽出して評価する。

環境対策における8つの評価軸

評価軸	評価内容
1. 河川管理施設の維持管理	河川管理施設的良好な状態での維持及びライフサイクルコストの縮減等
2. 河川環境の保全	動植物の生息の場としての環境の保全
3. 水質の保全及び改善	水環境(環境基準)の保全と改善
4. 河川利用の安全性・利便性の向上	河川空間を利用するにあたっての安全性、利便性
5. 実現性	関係者等との調整、法制度上、技術上の実現性の見通し
6. 持続性	対策効果(利活用)の将来にわたっての持続可能性
7. 地域社会への影響	事業実施区域周辺への影響の程度、地域振興効果、利害衡平等
8. コスト	総事業費(維持管理費含む)